

市長への要望書

2013年10月22日

名古屋市長 河村たかし 様

相生山の自然を守る会

代表 近藤 国夫

名古屋市天白区天白町野並相生 28-341

<http://www.aioiyama.org/>

TEL : 090-6337-1095

「意向調査」の方法・内容に市民・住民の参加を

市長は、10月15日の定例記者会見で中断中の「市道弥富相生山線」の建設の是非を1月末までに判断するため、4学区の地元住民の意向を調査するよう指示したと発言しました。2009年9月26日の「市長の前でちょっといい対話！」の席上では、「科学的検証を行ってから判断する」と市民に約束しましたが、それが「住民投票のようなものの結果で判断する」と変化しました。

市長は、3月18日の土木交通委員会で「里山イニシアティブ」を時代の要請として「道路より自然を大切に」と明確に意思表示し、地元の入り込み交通に対する対策については、道路建設と切り離して解決する問題であると発言しています。また、8月2日の「健康と環境を守れ！愛知の住民いっせい行動」では「わしは止めたらどうだと（当局に）言っとるんだ」と当局の姿勢に対し苦言を呈していましたが、当局は土木交通委員会において「市長に従う」と明言しています。それならば、市長が「中止の決断」をすれば良いのです。私たちはこの2年間、市長の決断を期待していました。しかし、実際には、当局は施工ワーキングを進め、「ワーキングのススメ」を3学区（相生、山根、野並）に全戸配布して道路建設を促進するために税金を使ってきました。この矛盾が市長の「中止の決断」を遅らせていたのだと思いますが、私たちは市長に「中止の決断」をしてほしいと思っています。

これを踏まえて、「相生山の自然を守る会」はこの要望書を提出いたします。

市長提案の「住民投票のようなもの」が行われる前に、市民にとって必要だと考える以下のことについてお尋ねします。

1) このように市長が判断するはずであったのにもかかわらず、なぜ地元4学区の住民に限っての「意向調査」の指示に至ったのか、明らかにして下さい。

2) 「意向調査」の方法・内容については、当局だけで決めるのではなく、市民を参加させて下さい。「高度な民主主義実現」のためには、道路建設がもたらす問題を市民が共有することが必要だからです。また、多くの市民が相生山緑地を訪れていることを考えて、4学区以外の市民も意思表示できる場作りをしていただきたいと思います。

3) 相生山緑地を横切るこの道路建設に伴う環境破壊・自然破壊の他に予想される以下の問題を明らかにし、その情報を市民が共有できるように当局に指示することを要望します。

①弥富相生山線が相生・荒池緑道につながり、その先は、高坂へ抜ける鍵の手になった道路に繋がっています。そこから先は生活道路になっており、通り抜けが困難なエリアです。新たな渋滞と危険が予想されるのですが、その解決策を示して下さい。

②この道路は相生学区の子どもたちの通学路に繋がっています。今でさえ危険があるというので、相生小学校・相生学区は警察に問題解決を依頼しています。児童が安全に通学できるのでしょうか？この問題をどう考えているのでしょうか？

③道路が開通すれば、一日1万台の車両が通過することになりますが、現在、久方交差点から相生山交差点にいたる南北に走る道路に一日1万台の車両の通過があり、ここに渋滞が起きています。つまり、現在の1万台+新たな1万台の車両の通過が久方交差点の付近では予想されますが、この問題の解決策はどうなっているのでしょうか？

④また、「昭和高校前」の交差点においても、新たな渋滞が予想されますが、その解決策はどうなっているのでしょうか？

⑤多くの車両が行きかう道路には騒音、大気汚染はつきものです。緑地内での、稲田口付近のトンネルにおける反射音の大きさや橋梁に支えられた高所を通る道路による騒音、大

気汚染に関する調査など、必要な調査とその解決策はどうなっているのでしょうか。

さらには、光害や乾燥化などに拠る生態系への影響をどのように予測しているのでしょうか？

自然を守ることは時代の要請です。また、国交省による人口の減少の予測から導かれる結論は、これ以上の道路建設は無意味だということです。市民の財産である自然を守り、住民の生活環境を守るためには、弥富相生山線は「造ってはいけない道路」なのです。

市長さん、「高度の民主主義」の実現にはそれなりの準備と努力と時間が必要です。記者会見から 3 ヶ月足らずで、市民・住民全体が納得したうえでの投票ができるのでしょうか？ 必要な時間をかけ、市民参加で「住民投票のようなもの」を行うことが必要であると考え、その実現を市長に要望いたします。

以上